



ソフトウェア開発技術者の スキル評価

2003年 9月 4日

イー・ベンチャーサポート株式会社
ラーニングサポート事業部

目次

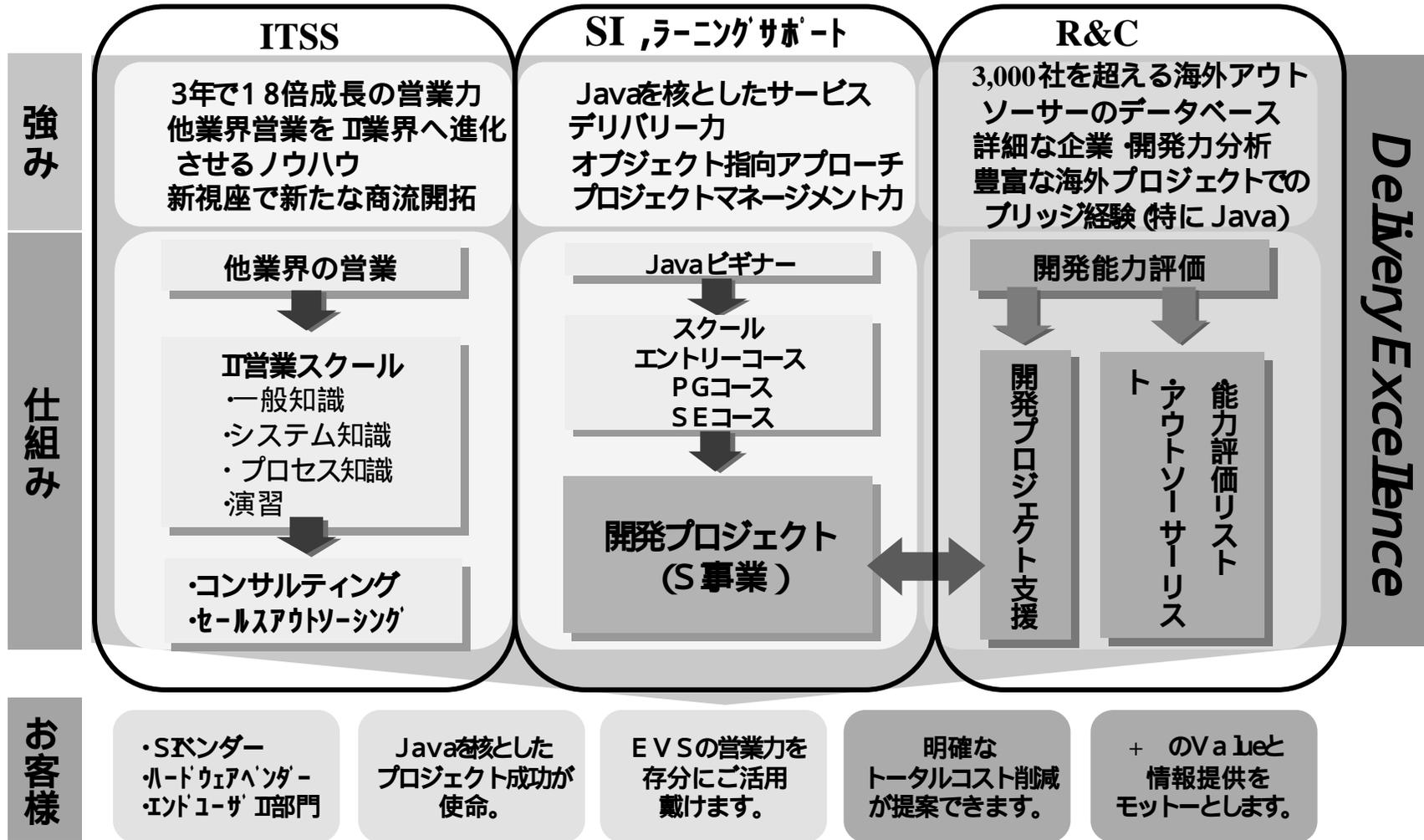
- I. 会社概要
- II. 今までのスキル評価の考え方
- III. トレーニングの位置付け
- IV. 具体的なスキル評価基準
- V. プロジェクトに必要な人材とは
- VI. 要求する側にも求められる評価
- VII. 最後に

.会社概要

- 会社概要

- 会社名 イー・ベンチャーサポート株式会社
- 所在地 東京都文京区湯島3-9-11増田ビル
5F
- 設立 2000年1月
- 資本金 3億3,850万円
- 従業員 85名
- 事業内容 Java技術をコアにしたシステムイン
テグレーション、Java言語を中心
にしたスクール、その他

会社概要



. 今までのスキル評価

- 業務経歴の曖昧さ
 - プロジェクトメンバーを選定するにあたって業務経歴書を拝見しますが・・・
 - 期間、お客様の業種、プロジェクト名 (らしきもの)、OS、言語、DB、ツールぐらいが列挙されている。
 - プロジェクトの規模やそのときの立場 (役割) はヒアリングする以外にはわからない。

. 今までのスキル評価

- テクノロジ中心のスキル評価
 - スキルといえば、 という製品を使ったことがある、使えるといったこと。
 - 業務経歴書に記載されているのは、テクノロジ中心で経験のみである。
 - プロジェクトで利用したが、本人は利用していないものまで記載されている例もある。
 - 「素直ないい子ですよ」という売り込みもあるが・・・

. トレーニングの位置付け

- プログラミングスクールでの評価
 - スクールトレーニング (1ヶ月間) は卒業後、仕事を保証する形で展開してきたという経緯がある。
 - そのため、仕事 (= プロジェクト) で必要な人材を評価する必要があった。
 - テクニカル、コミュニケーション、マネジメントを評価。
 - コミュニケーション : 日頃の態度を含めて観察
 - マネジメント : 自分の実力を知ること

. トレーニングの位置付け

- コミュニケーションスキルの重要性
 - プロジェクトの失敗を分析すると原因が見えてきた。
 - 言ったことが「正確に」伝わっていない。
 - 自分の解釈で作業を行って結果として、正しくないものを作ってしまった。
 - お客様の言っていることがわかっていないにも関わらず質問できない。 など
 - コミュニケーションできていれば・・・

. トレーニングの位置付け

- プロジェクトメンバーとしての総合評価
 - スクールトレーニングでの評価はテクニカル、コミュニケーション、マネジメント。
 - さらにプロジェクトのアサイメントに先立って、キャリア、その他の評価をプラス。
 - 経験と知識、行動特性からアサイメントのガイドラインとする。

具体的なスキル評価基準

- 5つの分野に分ける
 - テクニカル(9- 29分類、117項目)
 - 言語、Webシステム共通、データベース、ネットワーク、開発環境、開発プロセス、セキュリティなど
 - コミュニケーション(8分類、47項目)
 - 情報収集力、インタビュー力、文書力、プレゼンテーション力、会議運営、交渉力、論理的思考力など
 - マネジメント(9分類、54項目)
 - 進捗管理、プロジェクト管理、要員管理、労務管理、品質管理、リーダーシップ、関連法規など
 - キャリア(5分類、35項目)
 - プロジェクト経験、担当フェーズ、業務知識、業種知識など
 - その他(5分類、38項目)
 - ビジネスマナー、勤怠、報告・連絡・相談など
 - IT系資格など

具体的なスキル評価基準

分野	中分類	小分類	分類	内容	PGB		PGA	
					最低条件	メジャー	最低条件	メジャー
テクニカル	言語	HTML	S	簡単なページを作成できる				
			S	フレームを利用できる				
		Java	K	MVCモデルを理解している				
			E	MVCモデルを利用したプロジェクトに参加した				
			S	MVCモデルを有効に利用できる				
			K	EJBを理解している				
			E	EJBを利用したプロジェクトに参加した				
			S	EJBを有効に利用できる				
		JavaScript	K	JavaScriptを理解している				
			E	JavaScriptを利用したプロジェクトに参加した				
			S	JavaScriptを有効に利用できる				
		Perl	K	Perl言語の基礎を理解している			-	
			S	Perl言語とRDBを利用したシステム開発ができた			-	-
			E	Perl言語を利用したプロジェクトに参加した			-	-
		PHP	K	PHP言語の基礎を理解している			-	
			S	PHP言語とRDBを利用したシステム開発ができた			-	-
			E	PHP言語を利用したプロジェクトに参加した			-	-
		Flash	K	ActionScript言語の基礎を理解している			-	
			S	ActionScript言語とRDBを利用したシステム開発ができた			-	-
			E	ActionScript言語を利用したプロジェクトに参加した			-	-
	Webシステム共通	ブラウザ	K	ブラウザの機能を理解している				
			S	ブラウザの機能を有効に利用できる				
	データベース	Webアプリケーション	K	Webアプリケーションの仕組みを理解している				
			E	Webアプリケーション開発経験がある			-	-
		RDB	K	RDBの基本的な機能を理解している				
			E	RDBを利用したプロジェクトに参加した			-	
		SQL	K	SQLの基本的な機能を理解している				
			E	SQLを利用したプロジェクトに参加した			-	
			S	簡単な操作 (select, insert, update, delete) ができる			-	
			S	定義の操作 (DDL, DCL) ができる			-	
			S	SQL実行の分析ができる			-	
		パフォーマンス	S	パフォーマンスを考慮したコーディングができる			-	
			S	パフォーマンスの改善ができる			-	
		正規化	K	データベースの正規化を理解している			-	
	S		データの正規化ができる			-	-	
	導入・管理	E	RDBの導入をしたことがある			-	-	
		S	RDBの管理ができる			-	-	
	設計	E	データベースの論理設計をしたことがある			-	-	
		E	データベースの物理設計をしたことがある			-	-	

.具体的なスキル評価基準

- 知識、経験、スキルの3面を評価
 - 知識として
 - 0 :知らない、1 :知識として知っている、2 :簡単な説明ができる、3 :他の人に教えられる
 - 経験として
 - 0 :経験がない、1 :指導を受け利用したことがある、2 :自分で利用/使用したことがある、3 指導したことがある
 - スキルとして
 - 0 :遂行できない、1 担当領域の業務を遂行できる、2 :他を指導しながら業務を遂行できる、3 :外部向けセミナーができるぐらいに熟達している

プロジェクトに必要な人材とは

- 単にテクニカルスキルだけでアサインすると…
 - エンジニアのモチベーションは？
 - 求められていたのは技術か？
 - チームの中での役割は？
 - キャリアパスは？
- アサインメントミスの多くはコミュニケーション不足

・要求する側にも求められる評価

- 事後評価を必ず行うように徹底

- 評価タイミングと評価者

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| • スクール終了時 | スクール責任者 |
| • プロジェクト開始前 | プロジェクトオーナー |
| • プロジェクト終了時 | プロジェクトオーナー
(アサイン先担当者の意見を参考にする。) |
| • 半期時 | プロセスオーナー、部門責任者 |

. 要求する側にも求められる評価

- アサイメントシートの運用
 - プロジェクト開始前に、プロジェクトでの作業内容と求められる役割、会社が期待すること、本人のコミットを話し合う。
 - プロジェクト終了時に、実績としてどのように業務が遂行されたか、貢献度は？といったことを確認しあう。

.最後に

- テクニカルスキル評価は変化していくもの
 - 技術は進歩、進化している。
 - キャッチアップのために常に動向を見ていく必要がある。
 - 職種の多様化に応える。
 - 評価基準は、プログラマ・システムエンジニア対象とプロジェクトマネジャー、アーキテクト、エデュケーションに拡大している。

.最後に

- テクニカル以外のスキルは評価しづらい
 - 現時点での評価は、3～4名で行っており、それほど「ブレ」はない。
 - 次の評価者を育成するためのトレーニングは実施できていない。
 - 客観的な評価指標は難しいと考えている。(誰もができるとは思わない。)

.最後に

- グローバルスタンダードに向けて
 - 中国のビジネスパートナーを評価しようという試みをはじめている。(レポート&コンサルティング事業)
 - 海外アウトソーサーデータベースの販売
 - 2003年7月9日 (中国版)
 - 日経ビジネス、日経新聞、日経 IPrdに取上げられた。



ご清聴ありがとうございました。

連絡先

イー・ベンチャーサポート株式会社

ラーニングサポート事業部

電話 03-3837-1109

川野 達也 (kawano@evs.co.jp)